

【抗議談話】

ロシアによるCTBT批准撤回に抗議する

2023年11月8日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

11月2日、ロシアのプーチン大統領は包括的核実験禁止条約（CTBT）の批准の撤回に署名した。

ロシアではプーチン大統領が先月、CTBTの批准を撤回する可能性を示唆し、これを受けて議会で審議が進められ、撤回が可決されていた。そして2日、プーチン大統領が署名し、ロシアは2000年に行っていたCTBTの批准を撤回した。

ロシアは、アメリカがCTBTに批准していないことを取り上げ、均衡を保つ必要があるとその理由を説明し、ロシア外務省の高官も「アメリカが本格的な核実験に向けて動けば、報復的な対応をとらなければならない」と強調している。

ロシアは、この間、ウクライナ侵略において、核兵器の使用する可能性を示唆し、威嚇を繰り返している。同時にプーチン大統領は核実験を再開する可能性も示したとも報じられている。また、ロシアはことし2月にはアメリカとの核軍縮条約「新START」の履行停止も表明している。

ロシアによるCTBTの批准撤回によって核実験を再開する可能性も示したことは、ヒバクシャをはじめ世界の核兵器廃絶を願う人々に失望をあたえるものである。

CTBTは、1996年9月、国連総会で158か国が賛同して採択。180か国が署名（2022年12月現在、署名は186か国・批准は176か国）している。しかし、発効には核兵器や原子炉など何らかの核施設を保有する発効要件国の44か国すべての批准が必要であるのに対し、2022年12月現在で、インド、パキスタン、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、アメリカ、中国、エジプト、イラン、イスラエルが未批准であり、発効のめどがたっていない。

私たち反核医師の会は、いのちと健康を守る医師・歯科医師の立場から、今回のロシアによる「包括的核実験禁止条約（CTBT）」批准撤回に強く抗議する。そして、アメリカ、中国も含めて発効要件国のすべての国がCTBTに批准し、早期の発効を求めるものである。